

# 新産地化への道

山口県繊維加工協同組合  
シンポジウムより ②

岡部 山口県の地域経済の観点から廉価商品の織維製品にも及んだといえませんが、現在の廉価品は、単なる「安くおられますか。」

宗近 山口県経済に限らないのですが、価格の下落は、パソコンや家電製品で早くから進行して



山口県繊維加工協同組合 岡部理事長

「作品」というような文化的価値を有しているとも考えられます。

それはユニクロなどが目指す商品とは違います。そこがポイントでしょう。そして、そういった製品を作っている産地が西日本にあり、山口県もその一つです。とくに山口は多くの企業が集積した高度な産地といえま

作りが必要なわけですが、そのためには他分野の連携が重要になると思います。そのあたりを宇治さんはどのように考えていますか。

宇治 最近、とくにモジュール化されたこと、世界のどこで組み立てるかを重視していると思います。もっと、別の価値観を作っていくか、品質以上のものを作るのが難しいと思います。そうなる、原糸、織布、染め、縫製、加工などが重要なと考えると、それが差別化製品として全国的に注目を集めることで、再び山口に注目が集まるという

## 「価格」とは違う「価値」を

「価格」とは違う「価値」を

それは生かす、価格ではなく「価値」の定できません。しかし、現在ではグローバル化が進み、それこそ世界は「ラット」になったと言われている。そうなる、質本主義の原則では「メードイン・ジャパン」を残すのは難しいと見え、わってきます。ですから繊維製品の情報が重要で、地元で育

河内 その「価値」を消費者にどうやって伝えるかが重要です。

岡部 消費者視点でい

本主義の大原則なので否定的です。だから中国で組立てて5万円(笑)。ところが繊維製品は、そういうモジュール化が難しいのでは。糸が変われば織りが変わり、生地が単に店に置くだけではだめです。

「情報発信」というこ

- パネラー
- 日本モデルリスト協会事務局長 本多 敬 氏
  - 山口井筒屋 社長 河内一彦 氏
  - 山口経済研究所 調査研究部長 宗近 孝憲 氏
  - 本紙「繊維ニュース」記者 宇治 光洋
  - コーディネーター
  - 山口県繊維加工協同組合 理事長 岡部 泰民 氏